

第3章 これまでの成果

1 第四期基本構想・長期計画 (平成17～26年度)の実績と評価の概要

第四期基本構想・長期計画は、「都市の窓を開こう」「新しい家族を育てよう」「持続可能な社会をつくろう」という目標を掲げて、平成17年度にスタートした。主だった取組みとしては、地域リハビリテーションの実現に向けた事業の連携、認可保育所や認証保育所の新規開設などの待機児童対策及び子育て支援、環境への取組みやごみ減量の実践、まちづくり条例の制定や「緑のネットワーク」の推進などによる総合的なまちづくりの実践、市民協働サロンの開設、計画策定への公募市民の参加やNPO等による市民活動の広がりなどが挙げられる。

この計画期間内には、国による三位一体の改革

や民主党政権の誕生といった政治状況の変化、世界的な金融危機によってもたらされた経済状況の変化、急速な少子高齢化の進展などから、将来に対する不安の増大など、本市を取り巻く社会環境には様々な変化があった。また、近隣関係の希薄化による子育て世帯や高齢者世帯の孤立化に対する懸念、都市インフラの老朽化、地域活動の担い手の不足等、第五期長期計画にも引き継がれる課題も発生した。

総合的に勘案すると、第四期基本構想・長期計画に基づき、健全な財政運営を維持しながら事業を着実に実施してきたことや、各課題に対する取組みを積み上げてきたことが評価される。

2 第四期長期計画・調整計画 (平成20～24年度)の実績と評価の概要

本市の計画策定における公募市民の参加が定着するなど、市民と一体となった市政運営や市民との協働が一層推進された。クリーンセンター建替え検討における市民参加はその成果の一つであろう。また、認可保育所・認証保育所の新規開設、中学校給食の実施、吉祥寺駅前・三鷹駅前の歩道駐輪場の廃止による良好な歩道環境の実現、地域包括支援センターと在宅介護支援センターの役割の整理、そして「ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス」(以下「武蔵野プレイス」という)の開館などは、特筆すべき成果といえる。このほか職員定数削減や財政援助出資団体における市委託事業の効率的実施ときめ細かいサービス提供など、行財政改革にも大きな前進がみられた。これらの点は評価されるべきである。



中学校給食の実施

一方、地域リハビリテーションの実現への取組みに代表される、分野や制度の枠組みを越えた取組みや多様な主体と市との連携は、今後一層進める必要がある。また地域のコミュニティ活動や課題解決力の低下はどの分野でも共通した課題となった。家庭ごみ排出量については、一定の目標

を達成したが、新クリーンセンターの稼働までに、さらなる抑制に取り組む必要がある。保育園待機児童解消へも取り組みを強化する必要がある。武蔵境駅圏では、鉄道連続立体交差化によるまちの一体化、三鷹駅圏では長らく未利用だった土地における民間開発、吉祥寺駅圏ではF&Fビルのコピス吉祥寺としてのリニューアルや吉祥寺駅改修工事の進展などがあったが、これらを今後のまちづくりにつなげていく必要がある。(社)日本ファシリティマネジメント推進協会から、本市の公共施設の保全計画等についての取り組みが認められ、表彰されたことは評価できるが、公共施設の老朽化等が進んでおり、今後、これらの施設や都市基盤のリニューアルに本格的に取り組む必要がある。



平成23年7月にオープンした
「ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス」



大型有料駐輪場開設前と後の駅前歩道